



## 教育委員会告辞

早春の息吹が感じられるこの佳き日に、卒業証書授与式が挙行されますことを心からお喜び申し上げます。

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。義務教育9か年を修了し、新しい道に進もうとする輝かしい門出を、心からお祝いたします。

平成22年及び平成23年に皆さんが生まれた頃は、日本にとって忘れられない激動の時代でした。平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、日本中が深い悲しみに包まれる中、当時、世の中を支えた言葉は「絆」でした。人と人が支え合い、困難を乗り越えようとする強い意志の中で、皆さんは「希望の光」として、この世に迎え入れられたのです。

震災後、多くの企業がCM放送を自粛する中で、繰り返し放送されたACジャパンのCMは人々の記憶に刻まれました。その一つに、詩人・宮澤章二の「行為の意味」という詩が引用され、「心は誰にも見えないけれど、心づかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える」という言葉が、被災地への支援や身近な人への助け合いを促す力強いメッセージとなりました。

これからの社会は、予測困難なことが多いかもしれませんが、皆さんは「困難を乗り越える強さ」と「人とつながる強さ」を生まれたときから社会から受け継いでいます。「震災」の時に再確認された、人を思いやる優しさを忘れないでください。

今後、進路や人間関係で悩むこともあると思いますが、どれが楽しいか、どれが損をしないかを考えると心が少し窮屈になってきます。そんな時は、型にはまらず、失敗を恐れず自分だけの「面白い!」をたくさん見つけてください。誰も歩いていない真っ白な道を進んでいく皆さんの人生が、抱えきれないほどの笑いとワクワクするような冒険でいっぱいになることを心から願っています。

諫早市は、時代を超えて受け継がれるべき「不易」の価値と、激動する社会のニーズにこたえる「流行」の英知を融合させながら、教育に係る整備を進めています。皆さんのふるさとである「諫早」がもっと元気になるように、新しい学校づくりに邁進してまいります。

結びに、これまで学校の教育活動を温かく見守り、支えていただきました保護者の皆様、誠心誠意、生徒と関わってこられた校長先生をはじめとする教職員の皆様、ひとかたならぬお力添えをいただきました地域の皆様、関係各位に深くお礼を申し上げ、告辞といたします。

令和8年3月10日

諫早市教育委員会